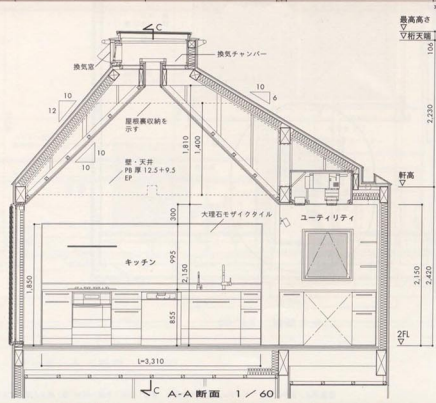
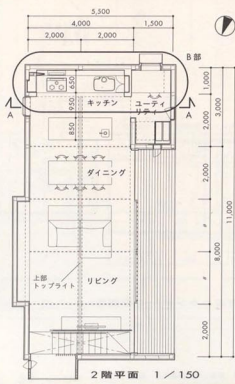


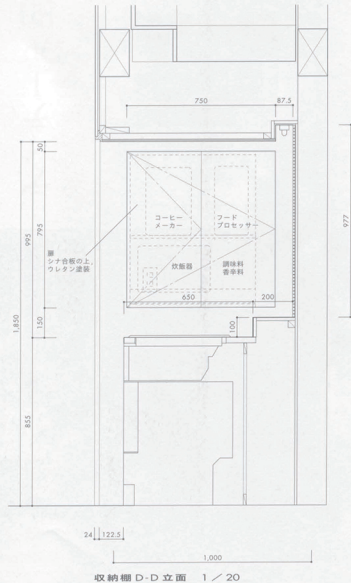
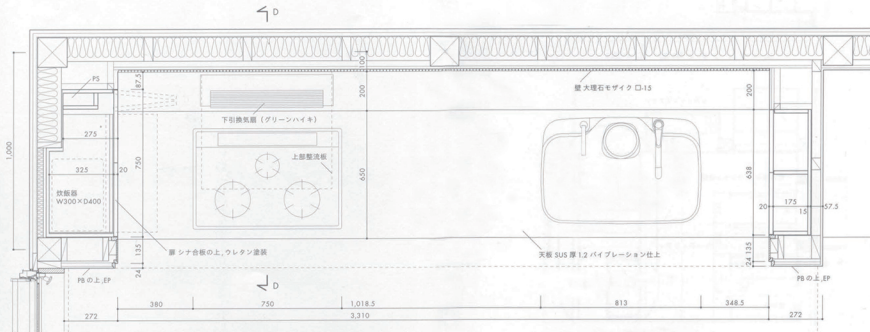
# かまどに仕舞われた生活のイメージ

八雲の家 矢板久明+矢板直子/矢板建築設計研究所



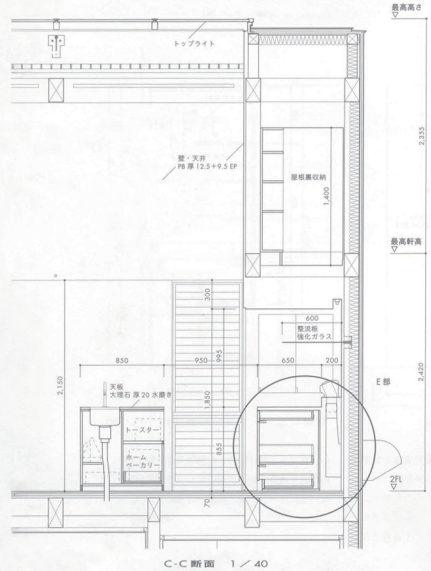


キッチンカウンターは壁上部にある主空間の南側の壁にはめ込まれており、トップライト下の妻壁につくられた「かまど」のように扱った。壁をつつの量境として表すために、左右の壁は厚みを持たせ、この壁が左右対称に見えるよう、向かって右の壁は、構造の芯線から内側にずらして設置してある。  
この「かまど壁」の上部は屋根裏収納となっており、左右の壁も収納として有効活用している。

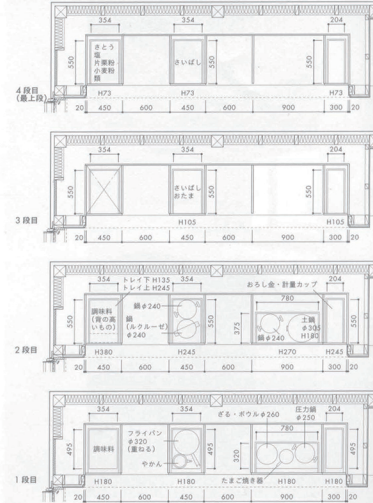


特に左側の壁の取柄には、電気釜、コーヒーマーカー、ジュサーなど、日常的に使う電化製品が入っており、使用時にはこの中の引出し式のトレイを出し、機器から出る湯気は、壁面に取り付けたガラスの煙返しで受け、下引換気扇(グリーンハイネ)で排気されるよう計画した。  
この換気扇は、カウンターより10cm立ち上がった台を設け、一つのオブジェのように置いたものである。

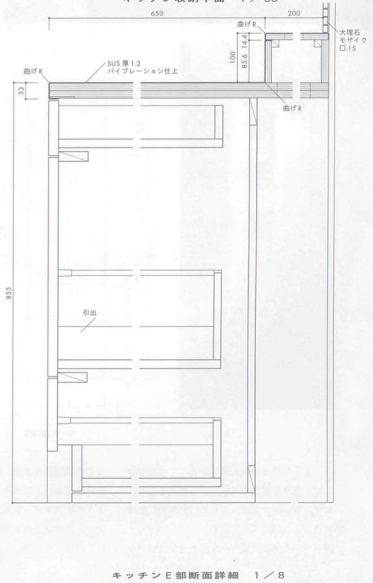
キッチンB部平面詳細 1/20



C-C 断面 1/40



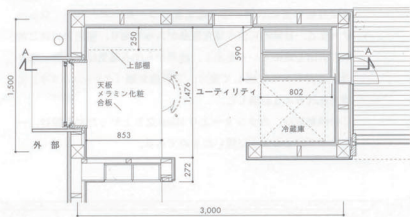
キッチン収納平面 1/50



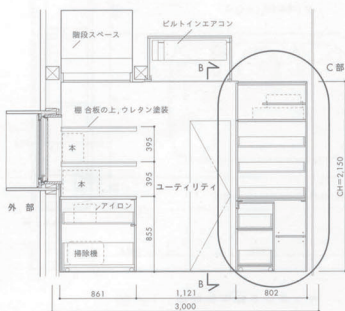
キッチンE部断面詳細 1/8







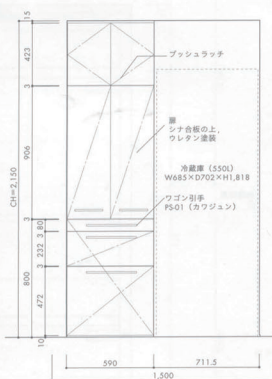
ユーティリティ平面 1/50



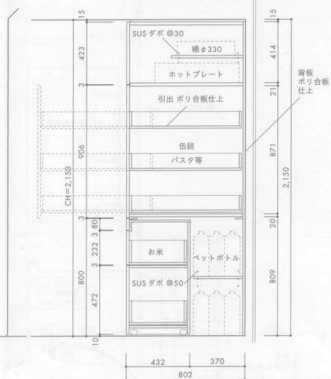
A-A 断面 1/50



\*\*



B-B 断面 1/30



C部引出し・ワゴン断面詳細 1/30

ユーティリティは夫人の書斎として位置づけたが、引出し式の食品庫や、冷蔵庫もここにあり、買い物から帰ってくれば効率的に収納できるよう設えられている。  
キッチン収納計画は、食器からフライパン

などの調理器具まで、収納場所を考えた設計を進めた。このキッチンは細部にわたる夫人の生活イメージを具現化したもので、夫人は家が出来上がる前にイメージの中ですでにこの家に住んでいたと言っても過言ではな

い。竣工後3年半経過した現在でも、竣工時の秩序を保ちながら立派に使いこなしておられ、設計者冥利に尽きる思いである。

(矢野久明)